調査日

上半期：平成29年7月25日
下半期：平成30年1月19日、25日

No.	調査箇所	pH		SS（mg/L）		BOD（mg/L）		DO（mg/L）		透視度 (cm)	
		上半期	下半期	上半期	下半期	上半期	下半期	上半期	下半期	上半期	下半期
1	新野川　天神橋	8.0	7.7	2.0	0.1未満	1.2	0.7	9.8	15.0	100以上	100以上
2	新野川　苗代橋	7.5	7.7	15.0	8.0	1.1	0.8	5.6	13.9	48	30
3	池新田北下水路	7.8	7.8	15.0	0.1未満	1.8	0.7	7.8	10.6	57	100以上
4	新野川　新川橋	8.0	7.7	13.0	7.0	4.2	0.8	10.3	13.7	20	36
5	新野川　雨垂橋	7.7	7.7	8.0	4.0	1.5	0.7	7.0	13.0	57	65
6	東町都市下水路	7.6	7.6	3.0	0.1未満	0.5未満	0.5未満	7.1	11.7	96	100以上
7	新野川　新野川橋	7.8	7.7	6.0	5.0	3.0	0.7	10.1	13.1	50	62
8	落合都市下水路	9.1	9.6	15.0	23.0	5.0	5.2	10.8	15.7	42	76
9	新野川　河口	7.4	7.7	13.0	10.0	1.7	2.4	5.1	13.2	32	44
10	箙川　箙川橋	8.7	7.4	3.0	1.0	0.9	0.5未満	8.9	12.6	100以上	100以上
11	箙川　小塩橋	7.7	7.5	5.0	12.0	0.9	7.1	6.3	9.3	78	26
基準値（参考）		6.5-8.5		25mg/L以下		3mg/L以下		5mg/L以上		-	

※御前崎市内の河川については、環境基準値が設定されていないため、榛南小笠水域の他の河川が『B類型』に設定されていることから、『B類型』の基準値を準用する。

※環境基準値とは、公害防止に関する各種の施策を実施する上で行政上の達成すべき目標であり、直接公害の発生源を規制するものではない。

用語解説

pH（水素イオン濃度）

酸性、アルカリ性を示す指標。7が中性で、数値が小さいほど強い酸性、数値が大きいほど強いアルカリ性を示す。特別な場合を除き、河川の表流水は7付近にあり、海水は8.2付近とややアルカリ性になっているのが普通である。

ＳＳ（浮遊物質量）

粒径2㎜以下の水に溶けない懸濁性物質をいい、水の濁りとなる。浮遊物質が多くなると、日光の透明を妨げ水域の自浄作用を阻害したり、魚類の工ラをふさいでへい死させたりする。一般に水域の正常な生物活動を維持するには浮遊物質の濃度は25mg/L以下が望ましいとされている。

ＢＯＤ（生物化学的酸素要求量）

河川の水質を表す代表的な指標。水中の有機物が微生物によって酸化分解される際に消費される酸素の量をmg/Lで表したもの。値が大きいほど、汚濁物質が（有機物）が多く、水質の汚濁が進んでいる事を意味する。

ＤＯ（溶存酸素）

水中に溶け込んでいる酸素。水中に汚染源となる有機物が増えると、それを分解する微生物のために消毒されて減少する。きれいな川の水には、7～10mg/L含まれている。魚が棲むためには、5mg/L以上は必要と言われている。
また、1mg/L以下になると、底質から硫化水素等の有毒ガスを発生して水質は著しく悪化する。

透視度

透き通りの度合いを示すもので、水槽を通して底に置いた標識板の二重線が初めて明らかに見分けられるときの水槽の高さを表す。普通、単位は水槽の高さ（ｃｍ）を“度”で表す。

透き通りの度合いを示すもので、水槽を通して底に置いた標識板の二重線が初めて明らかに見分けられるときの水槽の高さを表す。普通、単位は水槽の高さ（ｃｍ）を“度”で表す。